

都道府県別賞一等

もしものことを考えて

神奈川県 慶應義塾普通部 三学年

平 真輝

私は小学生の頃から野球を続けており、中学生になってからは硬式野球で、投手、野手の練習を重ね、試合での勝利を目指して頑張っている。野球は楽しいが、同時にケガのリスクも付きまとう。ケガは野球だけでなくスポーツ全般に言えることだが、野球においては、使用する硬式球は石の様に硬く、ちよつと当たっただけでもあざになるほどであるため、速いボールがぶつかったら大ケガだ。頭や心臓など、当たる場所によっては命の危険にも及ぶ。ピッチャーは、投球制限がある位投げ続けることは肩や肘に負担がかかる。他にもスライディングをしたり、飛び込んでボールをキャッチしたり、色々な激しい動作があるため、ちよつとした不注意で大きなケガにつながることも多い。

最近チームメイトが大きなケガをして入院をしてしまった。その際、病院での費用を保険で負担してもらえなかった。もし自分が大きなケガをしたらどうなるのか疑問に思い、母親に聞いてみた所、「スポーツ保険に入っているから大丈夫だ。」と言われ安心した。

保険といえは、大人が入るもので私には関係のないものだと思っていたが、このことをきっかけに保険が身近で大切なものであることを知った。そして、それ以来、保険の広告が気になるようになり、「生命保険」の存在があることも知った。ちなみに私自身は生命保険には入っていないようだ。病気やケガに備える「生命保険」。私の年齢だと大きな病気をすることはあまりないかもしれないが、野球などスポーツをしている以上、もしもの時の安心を得られるのであれば、生命保険にも入っていた方が良いのではないかと思った。生命保険に入っていれば、もし亡くなってしまふようなことがあった時には多額の保険金を支払ってもらえるようだ。

野球つながりでプロ野球選手について考えてみた。家族がいる選手だった場合、もしも大きなケガや病気で長い期間入院となると、医療費の負担が発生するだけでなく、プレーができなくなると収入も減り、生活に困ってしまう。最悪、亡くなってしまった場合はどうだろうか。家族を経済的に支える人がいなくなると、残された家族は収入がなくなり、同じように生活に困る恐れがある。このような場合に備えて生命保険に入るとは大きな意味がありそうだ。

野球をしていると、どれだけ気を付けてもケガを起こす確率がゼロになることはない。ピッチャーであれば、肩や肘の故障が多く、バッターは足、手首などを

## 第62回中学生作文コンクール

痛めることが多い。もし大きなケガをしてしまったら、野球を続けることそのものが難しくなるかもしれないし、長期治療が必要になることもある。そんな時には、治療費やリハビリ費用が大きな負担になることを知った。

家族がいなくても、プロ野球選手でなくても、生命保険や医療保険に入っていればこうした治療費などの一部をカバーしてもらえるため、経済的な負担を軽減できることが分かった。保険に入っていれば手術費や入院費の一部を補うことができ、安心して治療ができる環境が整うわけだ。保険はただ方々のためにお金を払うだけのものではなく、安心して自分の好きなスポーツを続けるための大切なサポートだと思うようになった。

これから野球を続けていくうえで、保険の存在は自分にとって大きな助けと安心になるだろう。今はまだ自分で保険に入ることはできないが、将来スポーツをさらに真剣に続けるようになったら、自分に合った保険を選びたいと思っている。そして、生命保険をはじめとした保険に入ることで、もしもを恐れずに、より安心してプレーに集中できる環境を整え、さらにプレーも上達していきたいと考えている。